

森林レクリエーション計画に関連する対比と調和の問題

九州大学農学部 薛 孝 夫

1. はじめに

前報¹⁾で森林レクリエーション空間の質について述べ、エリアの雰囲気と周辺の緑地環境との関係などを対比や調和ということばで説明したように、筆者は快適な空間をつくるための造型的根拠を今のところ「対比」と「対比を原点とした操作による調和」においている。それは、①対比が、点・線・面・形・色・材質感など、多くの造形要素に関与する概念であって応用範囲が広いこと、②自然的環境の中での人工物の設置や人間の活動など緑地計画の根底にある対比的な関係の中で、エリアに統調を与える方法として対比からの発想が最も明解であること、などの理由による。

2. 対比と調和の概念

対比とは、「大と小、赤と緑、明と暗などのように反対の性質のもの、あるいははなはだしく性質の違うものが同時あるいは相前後して経験されるとき、それらの性質の違いが誇張されて感ぜられる現象」であり、一方、調和とは、「うまくつり合い全体がととのっていること。矛盾または衝突なく互いに程よく和合すること」というのが一般的な解釈である。²⁾

永見³⁾は、対比を「相隣れる単位の相違が甚しきもの」、調和を「単位の相違が甚だ僅少の場合」とし、両者は対立するものとしている。この調和は狭義の調和である。塚田⁴⁾は、調和は「部分相互間に性質および数量上の相違と対立という多様性がありながら全体として統一的印象があり、変化が秩序づけられることによって快感をつくりだしている状態」で「対比も調和の一部である」という。これは広義の調和である。

江山⁵⁾は対比と調和を反対の概念ととらえながらも対比の方を広く解釈して、「特定の調子の中に全く反対の調子が介在して、しかも全体として統調されている形式」と述べている。また加藤⁶⁾は、対比・調和・対称に同一線上の序列を与え、それぞれを相互性・近似性・相似性の表現とする独特の解釈を示している。

このように、対比や調和といった造型上の基本的な概念でさえ、計画者によってさまざまに解釈されている。筆者は、対比は狭義に、調和は広義に用いるが、

調和ということばは対比の程度やとり合せが適度であるときに用いるのが最もふさわしいと考えている。

3. 対比効果を応用した計画

木々の緑の中にみえるセンターハウスの赤い屋根や白い記念塔、広々とした平坦地の中の独立木など、アクセントの快よさや破調の感動はほとんどすべて対比効果によるものである。形や色で表現される具体的な造型では対比は広く応用されている。

心理的な対比効果を応用した例を2・3示す。歩道の一部で意図的に岩場を通らせたり、細い丸太の橋を渡らせて、そこで緊張と疲労を強いることにより、歩道の他の部分はさほど平滑、平坦でなくとも不満はおきない。またロープウェーを山頂までかけずに、少し低いところまでにして残りを歩かせることにより、ロープウェーの快適さと山頂に立った満足感は増す。これらは継続対比の応用である。

また細い丸木橋でも、傍らに古くて腐りかけた廃橋があればありがたく感じるものだし、つり橋を渡りながら眼下に川底まで降りなければ渡れない橋が見えたときや、ロープウェーから眼下に同じく山頂へ通じる歩道が見えたりしたときに、つり橋やロープウェーの印象はさらに強くなるだろう。これらは、同時対比の応用例である。

4. 対比関係を調和的状态に導く操作

対比から調和的な状態へ導く方法として、①対比関係の融和、②対比関係の緩和、③対比関係の転化、④対比関係の希釈、の4つの操作を用いている。

① 対比関係の融和……ある要素について対比関係にあるAとBの一方、あるいは双方を他に近づけることによりAとBの対比関係を弱くする方法である。単純にコントラスト(対比)をシミュラティー(類似)に近づけるものである。(図-1)

② 対比関係の緩和……ある要素について対比関係にあるAとBの間にAとBの中間的な性質をもつPを置いて、弱い対比を示すAとP、およびPとBの関係を介在してAとBを見ることにより、結果的にAとBの対比関係を弱くする方法である。(図-2)

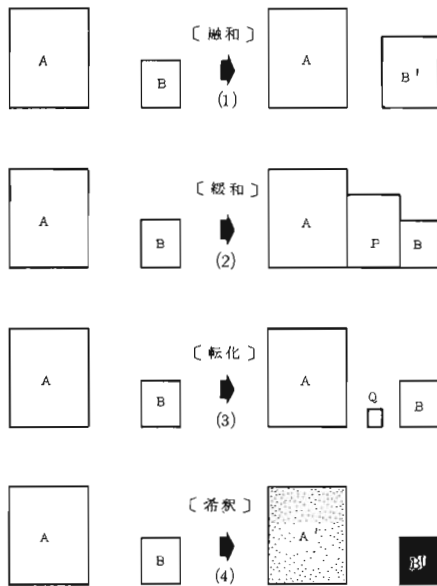


図 対比関係を調和的狀態へ導く操作

③ 対比関係の転化……ある要素について対比関係にあるAとBの間にAともBとも大きく異なる性質をもつQを置いて、AとQ、およびQとBの関係の方をAとBの関係より目立たせることにより、結果的にAとBの対比関係を弱くする方法である。(図-③)

④ 対比関係の希釈……ある要素について対比関係にあるAとBの双方に、他の要素についての対比的な関係を同時にたせることにより個々の要素についての対比関係を目立たなくする方法である。(図-④)

図-①~④では、大きさとテクスチャで模式化したがる、大きさ、線形、色など他の造型要素についても同様の考え方で処理することができる。

実際の造型には多くの要素が相互に関連しており、さらに複雑な操作が必要だが、この4つの方式を基本として対処できると考えている。

5. 対比操作の応用例

説明から明らかのように、①対比関係の融和は少なくとも一方を自由に決定あるいは変更できる場合に、②緩和と③転化はすでに変更できない対比関係にある場合に、また④希釈は対比関係にある1つの要素については変更できないが他の要素について変更できる場合に、主に用いる処理手法といえる。

① 対比関係の融和の例……切取法面のラウンディ

ングは、初めから周囲の地形との調和を意識して設計するのではなく、土質に応じた法面の安定勾配による最小限の工事量を基準にして考えられるものである。自由な設計が許されるもの、例えば山岳地の建築物の屋根勾配を決める場合、まず陸屋根を想定して周囲の稜線のつくる形との対比をどこまで融和すれば落ちつくかと考えたり、あるいは逆に鋭い三角屋根から出発してどこまで融和するかを考えることがある。

これは一般的にいわれる調和に相当するものであるが、対比から出発して考える方が簡単である。

② 対比関係の緩和の例……密生した樹林と草地が一線を画して併置されているとき、樹林の周縁部を部分的に切りすかしたり、草地の周縁部に同じ樹種を群状、あるいは点状に植栽することにより、両者の異和感は少なくなる。また、針葉樹の鋭角的樹冠によるスカイラインと直線状の根際線の間に、広葉樹中低木でやわらかい樹冠線をおくのも同様である。

③ 対比関係の転化の例……沿道の小広場と樹叢といふありふれた眺めの中に、例えば道標や説明板といった施設が加わることによって、その場が生き生きとした空間に変わることがある。ここでは新しい人工物の存在のために広場と樹叢とがより親密な関係を得たことになる。アクセントの設定には対比効果そのもののほか、対比関係の転化も考慮されることがある。

④ 対比関係の希釈の例……人工色の赤と木々の緑が同じ量感をもって存在する景色に比べて、緑の中に赤い屋根のみえる遠景の方が快くみえるのは、緑の部分が大きく赤い部分がごく小さいからであって、ここでは面積の対比により色の対比が希釈されている。

6. おわりに

本稿は森林レクリエーション計画の中で特に対比的な構成を勧めようとするものではなく、「塩の味をちょっと加えることによって甘味をひきたせうること」や「ある種の悪臭を加えることによって芳香が増すこと」が対比の効果とみなされる²⁾ように、造型要素間に対比関係があることすら気が付かない状態をつくるための効果的な手法として、対比を原点とした空間構成を提案するものである。

引用文献

- (1) 薛 孝夫：日林九支研論，34，175～176，1981
- (2) 世界大百科事典（平凡社），広辞苑（岩波書店）
- (3) 永見健一：理論実践造園学，P55，養賢堂，1932
- (4) 塚田 敢：色彩の美学，P161，紀伊國屋，1978
- (5) 江山正美：スケープテクニク，P193，鹿島出版会，1977
- (6) 加藤退介：日造秋季研要旨，35～37，1968